

とんぐい村の こみ・すく通信

令和4年3月10日発行 第23号
更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

みんなの学校応援団の活動を紹介<その16> 村助産師による「性教育」

更別中央中学校2年生が1月25日に、子育て応援課助産師の中谷さん、保健師の藤平さんに来校いただき「セクシャリティ(人間の性のあり方)と思春期の性」について学びました。

授業では、性の多様性、人権、プライベートゾーンの扱い方、思春期の身体や精神の変化について教えていただきました。

【生徒の感想から】

人権が重要で、正しい知識を身につけることが大切だということが分かりました。思っていたことと違っていたことが多く勉強になりました。」

間違いなくみんな望まれ喜ばれた大切な命です。その大切な命の花をしっかり咲かせてほしい。助産師としての私の願いです。



おひさまの会が上更小へ「絵本読み聞かせ」

家出をしたのですが、最後はお母さんと仲直りします。



2月14日、「おひさまの会」の皆さんが上更別小学校で絵本の読み聞かせをしてくださいました。読んでくれたのは「マリールイズ いえでする」という絵本。お母さんに叱られたのをきっかけに家出をしてしまうお話でした。

集まった1年～3年の子どもたちは、しっかりと前を見て絵本に集中していました。

集まった1年～3年の子どもたちは、しっかりと前を見て絵本に集中していました。

「私の英語理解できますか？」JICAから講師

2月1日、畜大で学んでいる JICA 留学生のイシメルさん(ガーナから)とスリディさん(ラオスから)が、更別中央中学校2年生に英語で自国のことを伝えてくれました。

これは、村で計画していた中学生海外派遣事業が新型コロナウイルスのため実施できなくなり、その代替として企画したものです。



【ラオスの楽器を紹介】

基本的な英語でゆっくりと話をしながら、自国の自然や食べ物などについて写真をもとに説明してくれました。子どもたちは緊張しながらも、相互に英語で質問をする中で刺激を受けていました。

更別小学校5年生の家庭科に授業支援

1月27日と2月2日の2日間、更別小学校5年生の家庭科に、地域の方々が授業支援に入ってくださいました。新型コロナの関係で人数を限定して3名ずつの支援となりました。

5年生の家庭科の内容は「エプロンづくり」。集中して取り組み、多くの子どもたちがエプロンを仕上げていました。支援に入った地域の方からは「周りに声をかけ、助けて作業を進めていました。仲がいいですね。」などの感想をいただきました。



まっすぐに縫っていくよ



上手に縫えているね



縫い目を確認するよ

分からない時には「師匠！」と地域の方に声をかけ、積極的に質問をしていました。